

第 59 期 中 間 事 業 報 告 書

2 0 0 5 . 3 . 1 > 2 0 0 5 . 8 . 3 1

To Our Shareholders



代表取締役会長
廣内 武



代表取締役社長
上村 茂

株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申しあげます。

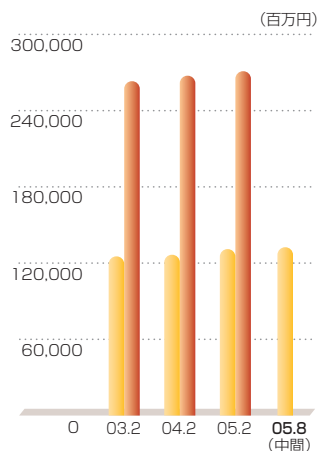
また平素より格別のご支援をいただき、心から感謝を申しあげます。

さて、ここに当社第59期上半期（平成17年3月1日から平成17年8月31日まで）の営業の概況等をご報告申しあげます。

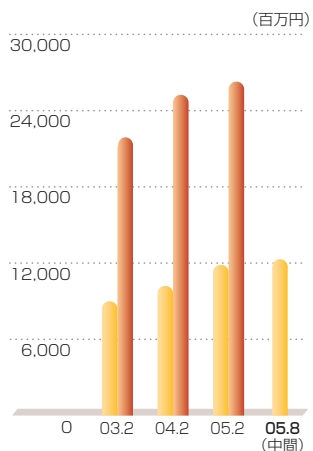
景気動向につきましては、緩やかな回復傾向の兆しが見られたものの、個人消費は依然として低迷しており厳しい状況で推移いたしました。そのようななかで、当社グループは当中間期におきましても引き続き着実に営業成績を伸ばすことができました。ここにご報告申しあげますとともに、今後とも「ブランド軸経営」による積極的な成長戦略を推進し、事業規模の拡大と経営基盤の強化を実現して、企業価値・株主価値の向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、格別のご理解とご支援を心よりお願い申しあげます。

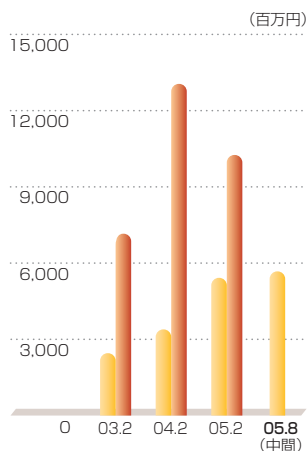
■ 連結売上高 (中間)
■ 連結売上高 (通期)



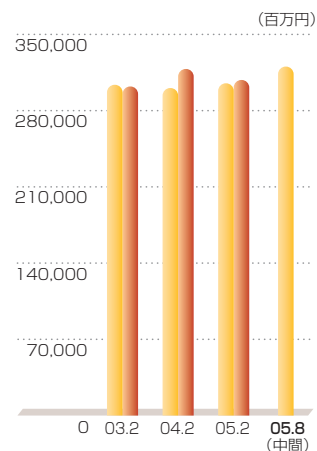
■ 連結経常利益 (中間)
■ 連結経常利益 (通期)



■ 連結中間純利益
■ 連結当期純利益



■ 連結総資産 (中間)
■ 連結総資産 (通期)



(百万円)

	2003.2	2004.2	2005.2	2005.8
連結売上高	263,398	267,745	271,273	132,699
連結経常利益	21,897	25,243	26,283	12,308
連結中間(当期)純利益	7,157	13,053	10,256	5,670
連結総資産	302,187	318,270	308,170	320,433
連結純資産	190,754	196,796	202,376	201,880
連結1株当たり中間(当期)純利益(円)	41.55	74.07	58.10	33.99

REVIEW OF

当中間期の事業環境と業績全般について

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、企業収益の改善が雇用や消費に波及しはじめ、景気は昨年後半の「踊り場」を脱し、内需主導による緩やかな回復傾向となってまいりました。

このような経営環境のなか、当社グループは「ブランド軸経営」を積極的に推進するとともに、トレンド型消費と実需型消費の二極化に対応するために、年間の商品企画サイクルを従来より細分化する「8シーズンMD（マーチャンダイジング）」を導入し、商品企画力の強化をはかってまいりました。

その結果、百貨店流通では、需要予測と追加生産の精度が高まり「23区」「組曲」「自由区」など大型基幹ブランドは前年を上回る売上を達成いたしました。また、「ポール・スミス」「マイケル・コース」「プライドグライド」などキャラクター性の強いブランドも順調に推移し、婦人服の売上拡大に寄与いたしました。

昨年からスタートいたしました、新生「ダックス」とグループ企業から当社に移管いたしました「ck カルバンクライン」は、新ショップ環境の導入など積極的な売上拡大策を進め着実な成



「ICB」

果をあげてまいりました。

また、大型ゴールデンウィークの活性化策として、バカンスニーズに向けた「バカンス ユアスタイル キャンペーン」をブランド横断型で実施し、当初計画を上回る成果を達成いたしました。

紳士服につきましては、政府主導による「クールビズ」が追い風となり、カジュアルシャツを中心にジャケットやパンツが好調に推移し、夏物の売上を牽引いたしました。

郊外型ならびに都市近郊型ショッピングセンターなどの新流通販路では、流通別のニーズ・競合環境に最も適応するブランドの開発と展開を推進し、今春から派生ブランドを刷新した「フェルゥ」「ドゥコンセプトラボ」の両ブランドが順調に進展しております。

以上、アパレル市況の本格的な回復が見られないなかにあつて、当社グループは主軸流通である百貨店と、新流通のいずれの販路においても、順調に業績を伸ばすことができました。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は、1,326億99百万円（前年同期比1.1%増）、経常利益は123億8百万円（前年同期比3.0%増）、中間純利益は56億70百万円（前年同期比8.0%増）の増収増益の実績をあげることができました。



「J.プレス」

PERARATION

通期の見通しについて

通期の見通しにつきましては、景気は緩やかな回復基調を続けているものの、原油高など大きな不安定要因や、個人消費につきましては税制改革による増税など先行き不安もあり、本格的な回復には時間がかかるものと予想されます。

当社グループといたしましては、下期は「ブランド軸経営」のさらなる強化をはかるために、店頭を起点にブランド価値を高める「ストアブランディング」の確立と「流通別ブランド戦略」を強力に推進いたします。上期から取り組んでおります「8シーズンMD（マーチャндаイジング）」につきましても、さらなる精度の向上に努めて、商品企画力の強化をはかってまいります。

百貨店流通におきましては、「23区」「組曲」「自由区」など大型基幹ブランドの単店舗売上拡大をめざし、安定的な成長と収益基盤の強化をはかります。また、紳士服を中心に、環境省が提唱する「ウォームビズ」に積極的に対応し、売上拡大につなげてまいります。

郊外型ならびに都市近郊型ショッピングセンターにおきましては、主力ブランドであります「組曲ファミ」「組曲スイス」を、今秋冬から、よりトレンド性を重視したカジュアルブランド「エニファミ」「エニスィス」に刷新し、ブランド競争力を高めてさらなる成長をはかってまいります。

駅ビル・ファッションビルにつきましては、セクシーカジュアルブランド「ローズブリット」ならびにセレクトショップ「クルーン・ア・ソング」の展開を今秋冬からスタートし、都市型商業施設への参入を本格化いたします。

本年5月に買収いたしました英国を代表するグローバルブランド「ジョゼフ」を、最重点基幹ブランドと位置づけ、今後は有力百貨店への出店を加速させるとともに、ワールドワイドな展開を実現させてまいります。

以上により平成18年2月期の連結売上高は2,835億円（前期比4.5%増）、経常利益は279億円（前期比6.2%増）、当期純利益は116億円（前期比13.1%増）と当初の計画を上回る業績を予定しております。



「組曲」



「自由区」

英国「ジョゼフ」ブランドを展開。

当社は、英国を代表するファッションブランド「ジョゼフ」を展開するジョゼフグループを買収いたしました。

ジョゼフグループはロンドン・パリ・ニューヨーク・東京など世界の主要ファッション都市で約60店舗を展開するグローバルカンパニーです。

今後の「ジョゼフ」ブランドの事業展開では、当社子会社であるイタリアのアパレルメーカー、ジボ・コー社の生産機能を活用するなどオンワードグループのグローバルネットワークとのリンクによりさらなるブランドビジネスの拡大をはかります。さらに現在展開中の婦人服に加え、今後は紳士服の強化、バック、シューズなど雑貨アイテムの拡大をはかりトータルファッションブランドとしての確立をめざします。



「ジョゼフ 英国本店」

新ブランド「anyFAM」「anySiS」のブランドナビゲーターに小雪を起用。

2005年秋冬からスタートの郊外型ショッピングセンター戦略ブランドである「anyFAM(エニファミム)」「anySiS(エニスィス)」のブランドナビゲーターに映画、ドラマなどで活躍している人気女優の小雪さんを起用しました。

小雪さんは、ハリウッド映画「ラストサムライ」や人気TVドラマ「エンジン」でヒロイン役を演じるなど、現在最も活躍している女優です。「エニィ」のターゲットである20代後半から団塊ジュニア世代の憧れの的であり、モデル出身の女優としてのファッションセンスの高さが新しい時代のクオリティカジュアルをめざす「エニィ」に最もふさわしいことから今回の起用決定となりました。

広告表現では、「any = 小雪」というイメージ構築を行うために、抽象的な背景の中で、エニファミムとエニスィスを着た小雪さんをシンボリックに表現しています。

小雪(こゆき)
神奈川県出身。2000年映画「ケイゾク」でデビュー。2003年「ラストサムライ」にヒロイン役で出演、ハリウッドデビューを果たす。現在映画をはじめドラマ、CM等の幅広い分野で活躍している。



「anySiS」

イタリア高級シューズメーカー「イリス社」に資本参加。

当社はグローバル戦略の一環としてイタリアの高級シューズメーカー、イリス社に資本参加しました。

海外市場での事業展開を加速させるために、欧州を拠点に世界市場でファッションビジネスを展開しているジボ・コー社の競争力を強化して事業拡大を推進します。

イリス社は、クロエ、マーク・ジェイコブス、ジョン・ガリアーノなど世界的デザイナーのシューズの製造と全世界への販売を手掛けています。

あわせて日本市場では2006年春から、当社子会社でインポートセレクトショップを展開するバスストップ社が扱うブランドのシューズとバッグ、イリス社が扱うシューズコレクションを集積した新しいプレステージインポートショップ「AUDOXIA（アウドクシア）」をスタートします！



「アウドクシア」

「オンワードブランドフェア2005WINTER」を開催。



当社は2005年10月15日から2005年11月13日まで、全社統一のフェア「オンワードブランドフェア2005 WINTER」を百貨店約200店で開催しました。子供服、服飾雑貨を含むほぼ全ブランドが参加する全国共通のプレゼント付キャンペーンで毎年、年2回実施しています。

婦人服は、「組曲」「23区」「ICB」「自由区」など14ブランド、紳士服は「五大陸」「23区オム」「J.プレス」「ジョゼフ・アブード」など13ブランドが参加いたしました。

期間中は重点商品をお買い上げのお客様に「ネットワークウォークマン」＆「オリジナルネックストラップ」が当たるプレゼントキャンペーンを同時に実施し、売上拡大をはかりました。

中間連結財務諸表

中間連結貸借対照表

(百万円)

(百万円)

	当中間期 2005年8月31日現在	前中間期 2004年8月31日現在
資産の部	(320,433)	(305,047)
流動資産	138,566	149,751
現金及び預金	62,099	77,104
受取手形及び売掛金	27,052	26,499
たな卸資産	30,440	27,178
繰延税金資産	4,052	7,541
その他の流動資産	15,220	11,742
貸倒引当金	△297	△314
固定資産	181,866	155,295
有形固定資産	99,040	97,001
建物及び構築物	33,703	32,127
土地	57,150	57,109
その他の有形固定資産	8,186	7,764
無形固定資産	27,176	2,069
連結調整勘定	24,778	—
その他の無形固定資産	2,398	2,069
投資その他の資産	55,650	56,225
投資有価証券	24,564	15,608
長期貸付金	2,371	6,147
長期前払費用	6,413	6,572
繰延税金資産	5,011	7,662
再評価に係る繰延税金資産	1,612	1,612
その他の投資	15,941	21,669
貸倒引当金	△265	△3,047
資産合計	320,433	305,047

	当中間期 2005年8月31日現在	前中間期 2004年8月31日現在
負債の部	(101,278)	(91,689)
流動負債	91,462	80,809
支払手形及び買掛金	44,131	45,761
短期借入金	26,064	15,464
未払費用	6,531	6,129
未払法人税等	5,918	6,211
未払消費税等	800	1,113
賞与引当金	3,227	3,412
返品調整引当金	945	984
その他の流動負債	3,844	1,731
固定負債	9,815	10,880
退職給付引当金	2,231	2,879
役員退職金引当金	1,645	1,639
連結調整勘定	1,118	1,566
その他の固定負債	4,819	4,795
少数株主持分	(17,274)	(16,142)
少数株主持分	17,274	16,142
資本の部	(201,880)	(197,215)
資本金	30,079	30,079
資本剰余金	50,043	50,043
利益剰余金	132,476	125,973
土地再評価差額金	△2,352	△2,352
株式等評価差額金	2,361	1,144
為替換算調整勘定	△581	△627
自己株式	△10,147	△7,045
負債、少数株主持分及び資本合計	320,433	305,047

CONSOLIDATED STATEMENTS

中間連結損益計算書

(百万円)

	当中間期 2005年3月1日から 2005年8月31日まで	前中間期 2004年3月1日から 2004年8月31日まで
営業収益		
売上高	132,699	131,223
営業費用		
売上原価	71,464	70,997
販売費及び一般管理費	50,405	49,484
営業利益	10,829	10,741
営業外収益	1,743	1,476
営業外費用	263	267
経常利益	12,308	11,950
特別利益	15	38
特別損失	102	91
税金等調整前中間純利益	12,221	11,897
法人税、住民税及び事業税	5,583	6,286
法人税等調整額	213	△665
少数株主利益	753	1,025
中間純利益	5,670	5,250

中間連結剰余金計算書

(百万円)

	当中間期 2005年3月1日から 2005年8月31日まで	前中間期 2004年3月1日から 2004年8月31日まで
資本剰余金の部		
資本剰余金期首残高	50,043	49,707
資本剰余金増加高	0	335
資本剰余金中間期末残高	50,043	50,043
利益剰余金の部		
利益剰余金期首残高	130,979	124,575
利益剰余金増加高	5,670	5,250
利益剰余金減少高	4,173	3,852
利益剰余金中間期末残高	132,476	125,973

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円)

	当中間期 2005年3月1日から 2005年8月31日まで	前中間期 2004年3月1日から 2004年8月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,409	3,729
投資活動によるキャッシュ・フロー	△19,767	△5,428
財務活動によるキャッシュ・フロー	△8,313	△9,304
現金及び現金同等物に係る換算差額	48	18
現金及び現金同等物の増減額(△減少)	△19,622	△10,984
現金及び現金同等物の期首残高	81,543	87,811
現金及び現金同等物の中間期末残高	61,921	76,826

中間個別財務諸表

中間個別貸借対照表

(百万円)

	当中間期 2005年8月31日現在	前中間期 2004年8月31日現在
資産の部	(247,839)	(241,939)
流動資産	82,019	96,348
うち現金及び預金	26,158	41,425
うち受取手形及び売掛金	17,715	17,351
うちたな卸資産	21,651	21,127
固定資産	165,820	145,591
有形固定資産	71,639	72,300
無形固定資産	2,417	1,634
投資その他の資産	91,763	71,656
資産合計	247,839	241,939
負債の部	(53,389)	(52,728)
流動負債	47,360	48,804
固定負債	6,029	3,924
資本の部	(194,449)	(189,211)
資本金	30,079	30,079
資本剰余金	51,552	51,552
利益剰余金	124,293	117,094
土地再評価差額金	△2,352	△2,352
株式等評価差額金	2,147	1,007
自己株式	△11,271	△8,170
負債及び資本合計	247,839	241,939

中間個別損益計算書

(百万円)

	当中間期 2005年3月1日から 2005年8月31日まで	前中間期 2004年3月1日から 2004年8月31日まで
営業収益		
売上高	96,871	94,863
営業費用		
売上原価	51,126	50,961
販売費及び一般管理費	37,833	36,290
営業利益	7,911	7,611
営業外収益	2,328	1,719
営業外費用	183	174
経常利益	10,056	9,156
特別利益	14	29
特別損失	43	48
税引前中間純利益	10,027	9,136
法人税、住民税及び事業税	4,167	4,442
法人税等調整額	△127	△642
中間純利益	5,987	5,336
前期繰越利益	4,081	4,052
土地再評価差額金取崩額	—	△20
中間未処分利益	10,068	9,369

会社の概要 (平成17年8月31日現在)

社名	株式会社 オンワード樺山 ONWARD KASHIYAMA CO., LTD
本社所在地	東京都中央区日本橋3丁目10番5号
設立	昭和22年9月4日
資本金	300億79百万円
従業員数	1,676名

Stock Information

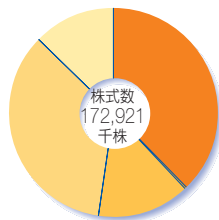
株式の状況 (平成17年8月31日現在)

会社が発行する株式の総数	400,000,000株
発行済株式の総数	172,921,669株
株主数	8,736名

(注) 発行済株式の総数には、自己株式 7,705千株が含まれています。

所有者別株式分布状況

	千株	%
金融機関	65,331	37.8
証券会社	542	0.3
その他の法人	24,654	14.3
外国法人等	60,411	34.9
個人・その他	21,983	12.7



(注) 個人・その他には、自己株式が含まれています。

大株主 (上位10社)

株主名	当社への出資状況	
	持株数 千株	持株比率 %
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	12,395	7.1
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	11,446	6.6
財団法人 樫山奨学財団	8,710	5.0
日本生命保険相互会社	6,227	3.6
株式会社 伊勢丹	5,001	2.8
第一生命保険相互会社	4,200	2.4
カリヨンパリオデーナリーアカウント	3,451	1.9
ザチェースマンハッタンバンクエヌエイロンドン	2,974	1.7
株式会社 三井住友銀行	2,931	1.6
全国共済農業協同組合連合会	2,826	1.6

(注) 当社は自己株式 7,705千株を保有しておりますが、上記の大株主から除いています。

株主メモ

決算期	毎年2月末日 (年1回)
定時株主総会	毎年5月中
配当金	株主総会の決議により、毎年2月末日現在の株主名簿および実質株主名簿に記載された株主にお支払いいたします。
基準日	毎年2月末日 その他必要があるときはあらかじめ公告をして定めます。
名義書換代理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 お問合せ先 0120-232-711 (通話料無料)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 野村證券株式会社 全国本支店
公告掲載新聞	日本経済新聞

単元未満株式の買増制度のご案内

単元未満株式をご所有の株主様は、その単元未満株式の数と併せて1単元になる数の株式を当社に対して買増請求することができます。

詳細につきましては、

名義書換代理人

(証券保管振替制度ご利用の株主様はお取引の証券会社)

までお問い合わせください。



当冊子についてのお問い合わせ先

株式会社オンワード樫山

〒103-8239 東京都中央区日本橋3-10-5

TEL.03-3272-2312